

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100173		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都北山の家 1号館		
所在地	京都府京都市北区鷹峯光悦町32-1		
自己評価作成日	平成27年11月13日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2690100173-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が笑顔で楽しく元気に過ごして頂くことを第一に考えて業務に取り組んでいます。ほぼ毎月、行事を開催したり地域の行事に参加させて頂いたり地域との交流も行い、常に状態観察を行い変化が見られるときには訪問医と連携をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から1年に満たない当該ホームは当初より地域交流を念頭に置き、学区の運動会や夏祭り、近隣施設で行われる高齢者の集い等に利用者と共に積極的に出かけたり、地蔵盆では地域から依頼を受けて駐車場を提供し参加した子どもたちと交流する等、地域の方にも受け入れられ利用者が交流できる機会が広がっています。職員間の関係性も良好で意見や提案を出し合い、利用者の暮らしてきた生活リズムを大切に一人ひとりに合わせて細やかに対応し、これまでの暮らしに近づけるような支援に努めています。また体操やゲームなど利用者が楽しめることを行いながら能力を引き出し役割を持てるような関わりに努めたり、利用者がホーム内に閉じ籠ることのないよう車いすの方にも声をかけ日常的に散歩に出かけたり、季節の桜の花見や紅葉狩りなど、多くの外出の機会を作っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我々、政本グループは福祉・介護サービスを提供し、高齢者の生活を支えるとともに、地域の雇用を守り、社会の安定に貢献します。」毎週、朝礼にて読み上げ理念を共有できるよう努めている。	法人理念を基に寄り添いや笑顔、温かい雰囲気づくり等を謳った独自の理念を作り、職員は日々利用者を優先したケアに努めながら理念の実践に繋がっています。週に1度法人から届く文書には法人理念の記載があり朝礼時に読み上げたり、問題が生じた時は独自の理念に沿っているか原点に立ち戻り職員間で話し合い確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での夏祭り・運動会・サロン・講習会等に参加させて頂いている。	自治会に加入し地域の夏祭りの他、運動会では玉入れに参加したり、近隣施設で行われる高齢者の集い等に参加し交流しています。地藏盆の際は地域から依頼を受けて駐車場を提供し参加した子供たちと交流をしています。また近隣の方が犬の散歩途中にホームへ立ち寄り、クリスマスには演奏のボランティアの来訪を予定しており、利用者が交流できる機会が徐々に増えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンや講習会にて他施設・自治会・地域住民の方々と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第四木曜日に実施している。	会議は利用者にも参加してもらい全家族に案内文を出したり、自治連合会長には直接案内文を届けて参加を募り開催しています。会議では社会福祉協議会会長や民生委員等から地域行事の情報を得て利用者と共に参加したり、徘徊模擬訓練や認知症カフェの取り組みに職員が参加することでホームへの理解が深まり地域行事へ参加する機会に繋がる等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北区支援課の担当者と連絡を取り合っている。	運営推進会議録は役所の窓口に直接届けており、分らない事などがあればその都度担当者に相談しアドバイスをしています。また区の職員の参加がある事業所連絡会には職員体制が整い次第参加を予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の規定に則り身体拘束ゼロの取り組みを実施している。	毎月実施している研修の中で身体拘束についても学び、カンファレンスの際には身体拘束の範囲や言葉による制止等についても話し合っています。エレベーターは家族の了解を得た上でロックしていますが職員は弊害について理解しており、出かけた方には職員が同行し出かけるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われている社内研修にて学ぶ機会を設け、防止に努めている。		

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービスを利用されている方も入居されているため、業務の中で制度について係わることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時等には新たな契約書を作成し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、意見要望があれば伺い、運営に反映させている。	家族の面会時には職員が利用者の様子を伝える中で意見がないかを聞いたり、面会の少ない家族には電話で報告を行い意見を聞くようにしています。入居間もない利用者が多く意見は出にくい状況ですが今後は年に1回程度嗜好調査を実施したいと考えており、意見の収集に努める予定としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に一度実施し、意見や提案を聞いている。	職員はフロア会議や連絡ノート、日々の業務の中で意見や提案を出したり、フロア毎に園芸や食品管理、広報等の担当を決め、担当業務を通して意見や提案を出しています。意見を受けて互いの顔と名前が分かるよう職員の顔写真を貼り出す等、意見はその時々で話し合い実施しています。また管理者は職員の様子を見ながら随時相談に乗ったり話を聞かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則り、業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にて資格取得などを推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会等に参加しサービスの質を向上を行っている。		

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接にて聞き取りを行い、安心して暮らしていただけるような関係、環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面接を行い話し合うことにより信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば福祉用具等のサービスとも調整を行い、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同フロア、他フロアの入居者との交流会や働きかけを行い、人間関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡調整を行い、安心して暮らせる環境を提供できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には消灯時間までゆっくりと過ごしていただけるよう心がけ、外出レクでは馴染の土地付近を通れるように等の工夫を行っている。	親戚や教え子、孫等が会いに来られており、居室に案内してお茶や椅子を用意しゆっくりできるよう配慮しています。自宅に必要な物を取りに行ったり、外出行事やドライブに出かけた際は利用者が知っている所や懐かしい場所を通るようにしています。また家族と共に親戚の集まる法事等に参加される際は身支度を整える等の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうことがないよう常に声掛けを行い、入居者同士で関わりあう時間が持てるよう努めている。		

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点での契約終了者はいないが、今後、該当者がいる時には契約中と変わることなく相談・支援を行うことを理解している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接にて聞き取りを行い、ケアプランに反映、検討している。	入居に向けての面談時に利用者や家族から暮らし方の希望等を聞いたり、利用していた事業所の経過記録等ももらい情報収集に努めています。得られた情報を基にカンファレンスを開き意向の把握に努めています。入居後は日々の関わりの中から得られた意向に繋がる情報は介護記録や申し送りノートに記入して共有し、カンファレンスやサービス担当者会議で検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに反映させ、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや経過記録により職員が周知できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施できている。	介護計画は利用者や家族も参加するサービス担当者会議を開いて作成し、参加が得られない家族には事前に意向を確認しています。3ヵ月毎にケアマネジャーが日々の実施状況をまとめてモニタリングを行い計画の実施状況や達成度を確認し、変化のない場合は支援計画連絡票を用いて他の職員の意見を収集し6ヵ月毎に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合ったプランを取り入れ実施できるよう努めている。		

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に密着し、楽しく生活が送れるよう、地域の活動に積極的に参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2日の往診にて医療面での支援を受けている。	これまでのかかりつけ医を継続する事は可能ですが24時間対応可能な協力医との連携状況等を説明し現在は全員が協力医を選択しています。協力医は定期往診の他、体調の変化時等は協力医の看護師の指示を得たり、随時の往診にも対応してもらっています。必要に応じて訪問歯科を受けたり、専門医への受診は家族が付き添い情報は口頭でやり取りし、連絡帳に記入し職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気づくことがあれば主治医に連絡をとり連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には常に情報交換を行い、病院関係者との信頼関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係各所と連絡調整を行い、十分な支援ができるよう努めている。	入居時に終末期にホームで対応できる事や医療行為が必要となった場合には対応が難しい事等を伝えています。開設間もなく支援の経験はありませんが職員は毎月実施している研修の中で看取りについても学んでおり、意向があれば協力医の意見も聞きながらホームで対応できる支援に取り組む予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人のマニュアルや社内研修にて学ぶように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施するとともに、自治体への報告を行っている。	年に2回消防署の指導の基、昼夜を想定し併設施設と合同で避難訓練を実施しています。消防署員から設備についての説明を受け通報や避難誘導などの訓練を実施し、訓練後に総括やアドバイスを受けています。訓練を実施する際には運営推進会議や地域に回覧し非常ベルが鳴る事などの案内をしています。また地域で行われる訓練には職員が参加しています。	訓練を実施する際には運営推進会議や地域に回覧し非常ベルが鳴る事などの案内をしています。災害時のホームへの協力についても依頼し、地域との協力体制づくりに繋がられてはいかげでしょうか。

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めながらも、丁寧な声掛け、対応を行うよう努めている。	毎月本部から届く研修資料を基に接遇マナーについても研修を行い職員に周知しています。その場の雰囲気を見ながら親しみを込めたり、個々の利用者に合わせた対応に努めています。また居室への立ち入りは利用者に了解を得ること等の基本的なことを伝え、不適切な関わりが見られた時は職員間で注意するよう伝えたり管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定できるような声掛け、対応を行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人に合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては時々、参加して頂いているが、準備・片付けについては毎食事に協力して頂いている。	食事は業者から調理済みの状態で届いたものを温めて提供し、ご飯と汁物は手作りしており、利用者は配膳などに携わっています。月に1度お楽しみメニューの日があり行事食等を選択することができます。また時には手作りおやつや餃子パーティ、カレー作りなどを利用者と一緒に楽しみながら作っています。今後は外食を取り入れたり、嗜好調査なども行う予定としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食材を提供し、個々に合わせた分量や形態に留意して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施して頂くよう努めている。夜間は入歯を保管して頂いている。		

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在は全入居者がトイレにて排泄されている。今後、必要とされるときには個々のパターン、習慣に合わせた誘導を行うことにより支援していきたい。	排泄記録を参考に排泄リズムを把握し個々に合わせてトイレで排泄ができるよう声掛けや案内をしています。ケアカンファレンスでは一人ひとりに合った支援方法や排泄用品の選択について職員間で検討しています。夜間のみポータブルトイレを使用している方もおり、希望や習慣も考慮しながら自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医に相談するとともに、食事面での工夫を行うなど便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り個々の希望に添えるよう支援している。	入浴は週に2回は入れるよう概ね午後から夕方位の間に支援し、希望があれば午前中や午後6時頃までは職員体制によって入ってもらうこともあります。入浴好きの方は入る回数を増やしたり、好みのシャンプーや石鹸を使用する方もおり、職員とゆっくり会話しながら入浴を楽しめるよう支援しています。また入浴を拒む方は職員を交代する等工夫しながら入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて昼寝して頂いたり、夜間は冷暖房にて快適に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤説明書にて確認を行うように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望に添えるようにレクリエーション等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は散歩や外出レクの他、地域の行事等にも参加を行っている。	雨の日以外はほぼ毎日利用者と近隣を散歩したり、買い物などに一緒に出かけています。運動会や地藏盆等の地域行事に出かけたり、ドライブや季節の桜の花見や紅葉狩り等の他、植物園には時々出かけ季節を感じてもらっています。玄関先や駐車場で外気浴をすることもあり、散歩や外出の機会が多く持てるよう支援に努めています。	

グループホーム京都北山の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失予防のため、金庫で保管させて頂いているのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話について対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品を掲示する等の工夫を行っている。	共用空間はクリスマスツリーや利用者と共に作成した季節のちぎり絵等を飾り、利用者が季節を感じながら過ごせるよう配慮しています。ソファを置き寛げる場所を作ったり、利用者同士の関係を見ながら随時配置換えを行い心地よく過ごせるよう配慮をしています。温度や湿度を管理し、関われる利用者と共に掃除を行い快適な空間を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子・ソファの配置等を工夫し、必要があれば移動して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りの物や好きなものを持参していただき住み慣れた空間に近づけるように努めている。	入居時に日頃使用している物を持ってきてもらうよう家族に伝えています。ベッドの頭の向きを自宅と合わせたり、利用者が持参した筆筒やテレビ等は職員が動線等をアドバイスし過ごしやすいよう配置しています。また家族の写真やぬいぐるみ等の安心できる物や自分で描いた絵を飾ったり、仏壇を持参し毎日手を合わせる方もおり、これまでの習慣も継続しながら安心して過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故につながるようなものは置かず、安全を第一に生活していただけるよう努めている。		